

令和7年度

「運営に関する計画」

自己評価（総括シート）

大阪市立白鷺中学校
令和7年4月

課題ユニット目標

ユニット	令和5年度目標	令和6年度目標	令和7年度目標
キャリア教育	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。	基礎的・汎用的能力の育成にかかる項目でのポジティブ回答 90%以上。
防災教育	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を目指す。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を目指す。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1 年生 : 75%以上、2 年生 : 80%以上、3 年生 : 85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1 年生 : 75%以上、2 年生 : 80%以上、3 年生 : 85%以上を維持する。	防災 ALT 生徒対象—「やりがいがあった」の回答 90%を目指す。防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった「はい」の回答 80%以上を維持する。地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上を維持する。全校生徒アンケートで「防災について考えることが大切だと感じるようになった」1 年生 : 75%以上、2 年生 : 80%以上、3 年生 : 85%以上を維持する。
生徒会	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上をめざす。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上をめざす。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。	①生徒アンケートの結果「学校が楽しい」の項目の学校平均 80%以上を維持する。 ②生徒会へのアンケートで生徒会役員の「やりがいがあった」という回答で 85%以上を維持する。
元気アップ	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 95%以上。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 85%以上。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を目指す。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を目指す。	①地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、・地域の方と交流するのが楽しいと答える生徒が 80%以上を維持する。 ②地域の方と積極的に交流できたと答える生徒 80%以上を維持する。
学力向上(授業研究/ICT)	①チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 77%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 78%以上。	チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②生徒意識調査で「ICT 機器を使った授業」に対するポジティブ回答 79%以上。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は課題ごとに「キャリア教育」「防災教育」「異学年交流」「元気アップ」「学力向上（授業研究・ICT）」の教員グループ作り、「豊かな心の育成」を教育目標として特色のある取り組みを行い、今までに「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」、ぼうさい甲子園「優秀賞」（令和 5、6 年度連続）などを受賞しその成果が認められた。

一方で大阪府中学校チャレンジテストの対府比は学年が上がるにつれて漸増するが、1.00 を超えるまでに時間を要している。「話し合う活動」や「ICT 機器の活用」が必ずしも授業内容の理解と結びついていない。論理的思考の前提となる語彙力・読解力や各教科の基礎基本の定着が喫緊の課題である。小中連携を一層推進し、基礎的な「知識・技能」を徹底して身につけさせた上で「学びに向かう力」を養成しなければならない。核となる授業力を高め、学力向上を加速させる必要がある。

またワンステップ（不登校支援ルーム）の一層の活用を図り、不登校生徒の改善の割合を増加させることが課題である。日々の生徒の心情を一層細かく把握するために「心の天気」の活用の徹底と相談活動の一層の充実を図りたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90% 以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ・年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 95% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 82% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における学級の生徒における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 71% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 85% 以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 50% 以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を 59% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 82%以上にする。→88% (昨年度末 85%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。→5.1% (昨年度 6.1%)
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 95%以上にする。→98% (新項目)

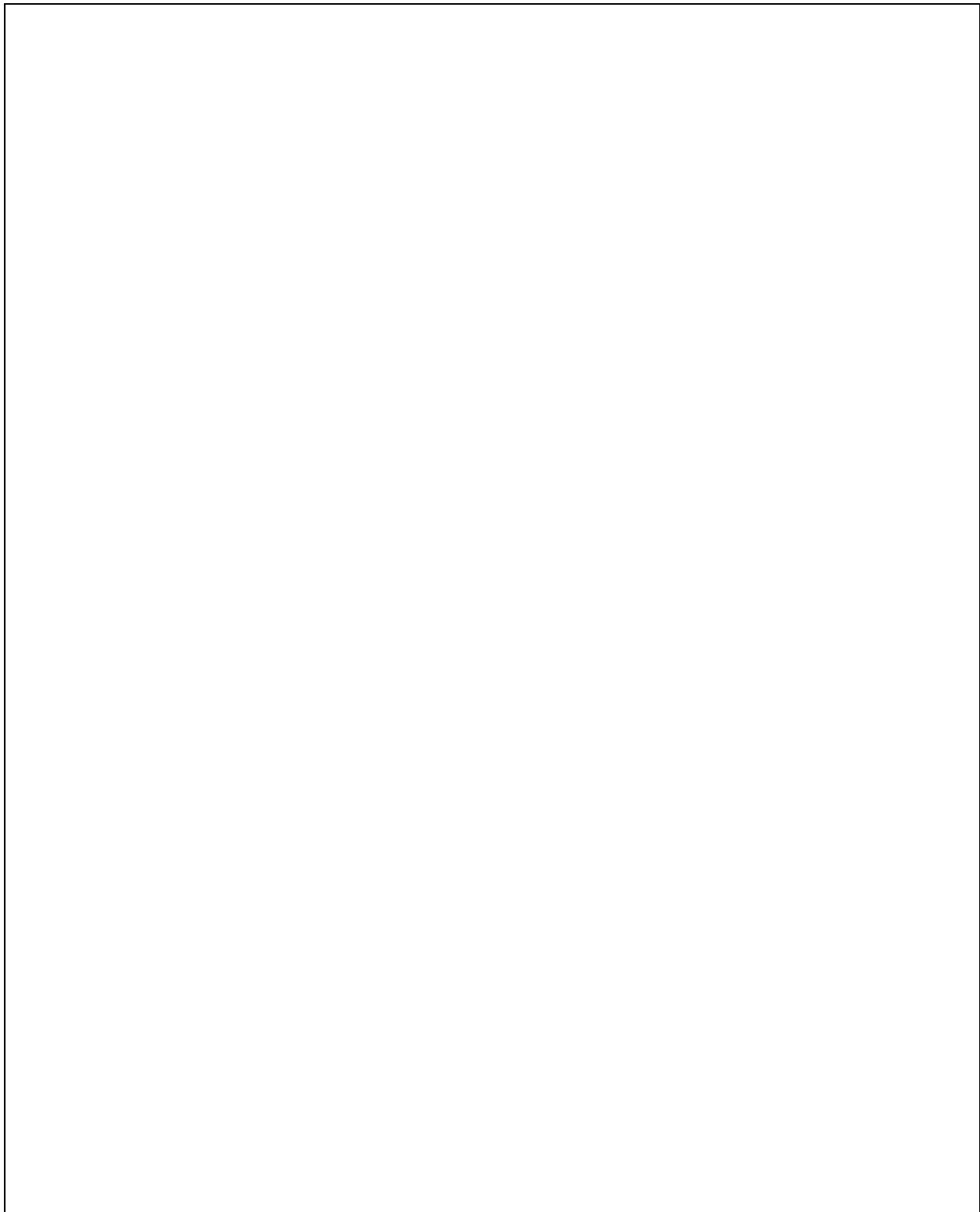
【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、「あてはまる」と回答する生徒の割合を 71%以上にする。→72% (昨年度末 70%)
- 年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 85%以上にする。→85% (新項目)
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を 59%以上にする。→60% (昨年度末 61%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を 87%以上にする。→88% (新項目)
- 年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を 80%以上にする。→85% (昨年度末 85%)
- 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。→46% (9 月末時点)

3. 本年度の自己評価結果の総括



(様式2)

大阪市立白鷺中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末校内調査における「学校が楽しい」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を82%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を95%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応】〈生徒支援部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちを中心にいじめを許さない学校づくりを行い、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ事案が起こった場合は、学校として許さない姿勢を貫き、一貫した対応を行う。被害者のケアを第一優先に行い、必要に応じてスクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図り、心の回復にあたる。また、加害者に対しても二度と起こさぬよう、教職員及びスクールカウンセラーでカウンセリングを行い、必要に応じて関係諸機関との連携を図る。事案によっては学級及び学年で事案について考えさせる時間を設け、再発防止に努める。 ・生徒（被害、加害）または保護者の対応に関しては、教職員は一人で対応せず、必ず複数で対応し、学年団、管理職等、学校全体で対応を行う。 <p style="text-align: right;">(安心・安全な教育環境の実現)</p> <p>指標：</p> <p>①校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p> <p>②校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答を95%以上にする</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が99%と指標を上回っている。しかし、数名「思わない」と回答している生徒が居るため、今後は全体で100%を目指せるように、各学年、学校全般的にいじめ・いのちについて考えさせる取り組みを生徒支援部を中心に考えていく</p> <p>② 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が98%と指標を上回っている。しかし、どの学年でも友人関係のトラブルがあり、SNSで相手の気持ちを考えない発言などがあった。</p>

<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <p>① に関しては、アンケート数値は高いものの、数名「思わない」と回答している生徒が居るため、全体で100%を目指せるように「いじめについて」考える時間を作るなど人の気持ちを考える時間の機会を増やしていく。</p> <p>② に関しては、アンケート数値は高いものの、学年によっては相手の気持ちを考えずにつぶやいてしまい、トラブルなるケースがある。一学期よりは減ってきてているもののトラブルをなくすためにも、学校全体で支援を行っていく。</p> <p>・取組内容②【1-2 不登校への対応】〈生徒支援部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー育成に伴い、小集団（班活動、学級活動など）の活動を通して生徒同士のつながりを深め、学年や異学年集団（委員会活動、部活動など）の中に一人ひとりの居場所や役割を確保し、いじめを許さない明るい学校づくりに努める。 ・集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようにする。 ・各学年の生徒支援チーフを中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。 ・登校できなくなってしまった生徒には、学校元気アップ地域事業本部と連携し、「one step」（不登校支援ルーム）の利用を進めていく。教職員と元気アップサポーターと連携をして、保護者との情報共有を行い、不登校生徒の支援を行っていく。 <p style="text-align: right;">(安心・安全な教育環境の実現)</p>	
指標 :	B
<p>① 校内調査において「学校が楽しい」の項目のポジティブ回答 83%以上を維持する。</p> <p>② 校内調査において「友達を大切にしている」の項目のポジティブ回答 92%以上を維持する。</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が88%と指標を上回っている。学校行事や部活動、学級活動を通して積極的に取り組めているためと考えられる。</p> <p>② 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が98%と指標を上回っている。班活動やクラスでの活動、部活動などを通して仲間意識を持つことができていると考えられる</p>	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <p>① については、今後も指標を上回ることができるよう引き続き、学級担任・学年教員・部活動顧問と連携して、生徒ひとりひとりの居場所があり、学校が楽しいと思える環境づくりをしていくとともに、生徒支援部でも支援をしていく。</p> <p>② に関しては、アンケート数値は高いものの、学年によっては相手の気持ちを考えずにつぶやいてしまい、トラブルなるケースがある。一学期よりは減ってきてているもののトラブルをなくすためにも、学校全体で支援を行っていく。</p>	
<p>取組内容③【1-5 防災・減災教育の推進】〈防災G〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に応じた学年ごとの防災教育を設定し、地域・関係諸機関と連携し、学習を進める。子どもの防災リーダーの育成を目指し、多くの取組を行う。 ・自他の命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力・貢献できるような人材を育成する。 <p style="text-align: right;">(安心・安全な教育環境の実現)</p>	

指標：

〈防災 ALT 生徒対象〉

- ・アンケートで「やりがいがあった」の回答 90%以上。
- ・防災の活動で自ら ICT を使用する機会があった。「はい」の回答 80%以上。
- ・活動を通じて地域の方とのつながりができた「はい」の回答 75%以上。

〈全校生徒対象〉

- ・校内調査において「防災について考えることが大切だと感じるようになった」の項目に対するポジティブ回答—1年生 75%以上、2年生 80%以上、3年生 85%以上。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

防災 ALT の活動としては、今川小学校への出前授業に赴き避難所の遊びを通じて小学校6年生の生徒たちと交流を深めることができた。夏休みには元気アップ隊、生徒会と協同で育和地域の夏祭りに出店側として参加することで、地域とのつながりをもつことができた。校外学習では「津波・高潮ステーション」に行くことで大阪の水害の歴史、これから起こる自然災害について学ぶことができた。(防災 ALT 対象のアンケートは未実施)

1学期末の生徒意識調査において「防災について考えることが大切だと感じるようになった」の項目に対するポジティブ回答は学年が上がることに高い数値となり全体で 94%となつた。

9/26（金）に行われた白鷺防災デーは、初の平日開催ということもあり、参加者も多く充実した防災学習の機会となった。1年生は諏訪清二先生の講演を聞き、防災とは何かということを学び、今後の生活にいかす非常用持ち出し袋の中身について考えるなど日常と防災を取り入れる内容ができた。2年生は関係諸機関と連携し、実動訓練を行い有事の際の地域の力になれるように学ぶことができた。3年生は齋藤幸男先生を講師として招き、「災害発生後の課題と対応」については地域の防災リーダーさん、女性部の方を含めた30人以上に参加していただき、生徒と一緒にワークショップを行った。地域の方、区役所の方から様々なアドバイスをしていただき、地域・関係諸機関とのつながりをさらに深めることができた。

次年度への改善点

持続可能な防災教育を目標に防災 ALT を中心に防災・減災の発信を地域に向けて啓発していく。防災教育を通じて地域に根差した白鷺中学校を目指し、防災をより身近な課題として捉えるようにする。

取組内容④【2-2 キャリア教育の充実】〈キャリア教育 G〉

自分自身をしっかりと内観させ、将来への展望を持たせると共に、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる取り組みをすすめる。

(豊かな心の育成)

B

指標：基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目での、ポジティブ回答を 90 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

1学期にキャリアタイムとして、3年生「高校体験授業」2年生「出前授業」1年生「職業講話」を実施した。2学期には「面接指導」、3学期には「笑育」「体験授業」を実施する予定である。アンケートでの基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目でのポジティブ回答は 90 %以上であった。

<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <p>キャリア教育に関わる行事に取り組む際の、事前・事後の活動をより充実させていくことが必要。</p>	
<p>取組内容⑤【2－3 人権を尊重する教育の推進】〈生徒会 G〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の連携（元気アップ、防災 ALT、各種委員会等）を図り、生徒主体の学校づくりを目標とし、「学校がたのしい」と思えるように、生徒一人ひとりの居場所や役割を確保する。 ・生徒議会を中心に、生徒自らが学校をよりよくするためのアイデアを出し合い、すべての生徒が安心で安全な学校になるよう学校全体で心掛けていく。また意見ボックス等も活用しながら生徒の意見を反映しやすい環境を生徒会で整える。 ・「いじめを許さない学校づくり」を目標に、いじめについて考える日や生徒会新聞を通して、いじめについての啓発活動を行い、生徒一人ひとりが過ごしやすい学校づくりを生徒たちと一緒に考えながら、学校環境を整えていく。 	B
<p>指標 :</p> <p>①校内調査において「学校が楽しい」の項目で学校平均 80%以上を維持する。</p> <p>②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目で学校平均 90%以上を目指す。</p> <p>③校内調査において「友達を大切にしている」の項目で学校平均 90%以上を目指す。</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>第1回生徒意識調査において、すべての項目で目標数値を上回ることができた。</p> <p>生徒会活動では、生徒議会で話し合った標準服についてのアンケートを全学年で行い、文化発表会の舞台発表で生徒に周知する準備を現在行っている。</p> <p>ほかにも生徒主体となる学校づくりを目指して、生徒議会の活性化やあいさつ運動の活発化を促していく。</p>	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <p>引き続き生徒議会の活性化に向けて生徒会執行部としての活動をしていくとともに、地域交流などの外部との関わりや活動を増やしていくを考えている</p>	
<p>取組内容⑥【2－1 道徳教育の推進】〈道徳教育推進委員会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、系統立てた実践を行い、生徒の道徳的心情を育てる。 ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選を行う。 ・話し合い活動等をしながら自分の意見を伝え他人の意見を聞く機会を多くとる。 ・道徳の授業の相互参観を行う。（豊かな心の育成） 	B
<p>指標：自分の意見を考え深めることができた、他人の意見を聞き尊重することができ ポジティブ回答 78%を目標にする。</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回校内学習意識調査における「道徳の時間に自分の意見を言え、他人の意見を聞き尊重できた」の項目では、ポジティブ回答の総計が 90%となり指標を大きく上回った。 ・学年の課題に合わせて内容を選択し、教材の精選や道徳の授業の相互参観を行うことができた。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <p>ICT を活用した授業展開や、ペアワークやグループワークで、生徒同士の意見交流を深めるなど、それぞれの先生方が工夫した授業をしてくださいました。道徳を先生方が見学しあうなどして、より先生方の授業展開のパターンを広げるとともに、より一層生徒の道徳的心情を深めよう教材研究を進める。</p>	

取組内容⑦【1-3 問題行動への対応】(生徒支援部)

- ・取り組み内容【1-2】でも記載したように、小集団や学年・異学年集団を通して、生徒一人ひとりの居場所を確保し、いじめだけではなく問題行動への発展を未然に生徒同士で注意しあえる環境を整えていく。
- ・集会、昼食、休憩時間などに生徒観察を行い、問題行動への未然防止、早期発見、初期対応ができるようとする。
- ・各学年の教員を中心に教職員間で密な連携を図り、学校全体でいじめやトラブル等の未然防止に努める。
- ・生徒が問題行動を起こしてしまった場合は、学年の生徒支援部のチーフ・学年主任と連携し、指導の計画を立て、情報を共有していく。ケースによっては生徒支援部長・生徒指導主事も参画し、必要であれば関係諸機関との連携も図っていく。

(安全・安心な教育環境の実現)

B

指標 :

- ①校内調査において「学校のきまり・規則を守っている」の項目のポジティブ回答85%以上を維持する。
- ②校内調査において「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目のポジティブ回答90%を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が95%と指標を上回っている。自分で考え自分で行動する機会などが増えたことでよりきまり・規則を守ろうとする意識が高くなつたと考えられる。
- ② 第1回生徒意識調査の結果では、ポジティブ回答が98%と指標を上回っている。
1-2での記載と同様のものと考えられる。

次年度への改善点

- ① に関してはこのままの数値を維持するために、継続して支援を行っていく。
- ② に関しては1-2でも表記したように、アンケートの数値は高いものの友人関係でのトラブルはある。なぜトラブルが起こったかを考えさせ、自分たちでトラブルが起こらない環境づくりができるように支援をしていく必要があると考えられる

取組内容⑧【2-3 人権を尊重する教育の推進】(人権教育推進委員会)

- ・校内で連携をはかり、人権尊重の教育実践を進める。
- ・違いを認め合い、いじめや差別を許さない集団を育成する。
- ・平和学習の取り組みを行うことにより、人権尊重の意識を高める。
- ・国際理解教育の実践の発展を模索する。

(豊かな心の育成)

B

指標 : 校内調査において、

- ・「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」(昨年98%)
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」(昨年98%)
 - ・「まわりの人と協力しようとしている」(昨年96%)
- の項目で、昨年度同様高い水準を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

生徒意識調査において、上記3項目のポジティブ回答の平均が97%と高い水準を維持できた。1学期の終業式では全学級で平和学習を実施でき、平和意識を高める機会となった。人権教育講演会では、教職員の研鑽の場となった。

2学期には「人権実践交流会」を実施する予定である。

次年度への改善点

今後も他の課題ユニットと連携を深め、中身の充実を図っていきたい

- 取組内容⑨【2-4 インクルーシブ教育の推進】〈インクルーシブ教育推進委員会〉
- ・特別支援学級在籍の有無に関係なく、特別な支援を必要とする生徒にできる限りの支援を行う。
 - ・生徒が自立し、主体的に社会参加できる力が養われるような支援を教員が計画し教育活動を行う

(豊かな心の育成)

B

指標：・全職員に配慮を要する生徒の情報を提供し、共有する。

- ・学年や学級担任、保護者と密に連携をとり、よりよい支援が計画できる
ようにする
- ・学年を超えて、特別支援学級担任全員で生徒を支援する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・各学年の担当教員が中心となり、学級担任や教科担当と連携しながら支援を進めることができている。
- ・年度初めの特別支援委員会では、全体研修を開き教職員に周知を行った
- ・個別の教育支援計画を生徒一人一人に作成し、保護者連絡を密にしながら支援をすることができている

次年度への改善点

- ・各月に特別支援小委員会を行い情報共有する

大阪市立白鷺中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を71%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「授業がわかる」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒割合を59%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】（授業研究G・ICTG）</p> <p>チャレンジテストにおいて、大阪府平均との差を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	C
指標：各学年のチャレンジテストの前年度と比較する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
結果が出次第、考察する。各学年、学力向上を目指して授業改善に取り組んでいる。3年生の全国学力学習状況調査の結果では、読解力向上の取り組みの成果が表れてきており、チャレンジテストの結果に期待がもてる。	
次年度への改善点	
学力向上のために、読解力の育成とともに、記述式問題への正答率の向上を目指して、取り組んでいく。	
<p>取組内容②【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】（国語）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに小テストや漢字テストを継続的に行う。また、プリントや漢字練習の宿題を出すことで基礎学力の定着を図る。 ・読書習慣をつけさせるために、学級文庫や図書館の利用をすすめる。 <p style="text-align: right;">（誰一人取り残さない学力の向上）</p>	B
指標：	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を78%以上にする。 ・1学期に1回学校図書室を利用する。 	

<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートで「国語の授業がわかる」と回答した生徒は 91.0% であった。単元の導入や前回の授業の振り返りなどを丁寧に行うようにし、語彙力を増やす取り組みも ICT を使ったり小プリントで復習するなど工夫しながら知識の定着を図っている。 読書の意欲が高まるよう、日々の授業や長期休み前の図書室利用で啓発している。夏休み前には全学年で図書室を利用し本に触れる時間をとるようにした。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返し復習することで漢字の力をつけることと、記述や要約、さらに自分の考えを述べる「書く力」への取り組み実践。 	
<p>取組内容③【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題を課して、家庭学習の定着を図る。 言語活動や話し合い活動につながるような授業の工夫を行う。 ICT を使った授業作りを心掛け、アクティブラーニングに取り組む。 	B (誰一人取り残さない学力の向上)
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 80% 以上にする。 全学年の提出物の回収率が 8 割を超えるようにする。 全学年で ICT を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回学習意識調査で 3 学年の「授業がわかる」の項目の平均が 84.5% と目標の数値を超えていている。 全学年の提出物の回収率が 8 割を超えていている。 全学年で ICT を活用した授業を展開している。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した話し合い活動の方法を検討していく必要がある。 	
<p>取組内容④【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】〈数学〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り学習や TT を行い、生徒一人一人の学びの充実化を図る。 ICT 機器を活用し、分かりやすい授業を行う。 	B (誰一人取り残さない学力の向上)
<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 70% 以上にする。 全学年で ICT 機器を活用し、よりわかりやすい授業を展開する。 	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内学習意識調査における「授業がわかる」が 70% であった。ICT の活用と TT を実施し、より分かりやすい授業を行う。 各学年でチャレンジテストの対策を考え、実践している。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業が分かる」と実感できるようにするために、TT や習熟度別学習にさらに取り組み学びの充実化を図る。 	
<p>取組内容⑤【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成）】〈理科〉</p> <p>興味関心をもたせる・学習意欲を向上させるために、理科室での実験や ICT 機器を利用した授業を推進する。また、基礎学力を定着させるために、プリントを用いた学習や小テストを作成・実施し、また家庭学習教材も工夫する。(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	B

<p>指標 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を 78%以上にする。 ・理科室は全学年で、年間 90 回以上利用する。 ・ICT 機器の利用やプリント学習、小テスト、家庭学習課題を週に 3 回以上実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目では、ポジティブ回答の総計が 90%となり指標を大きく上回った。 ・10 月末時点での理科室の利用が全学年で 90 回を超えることができた。 ・日々の授業で ICT 機器の活用やプリント学習がてきており、家庭学習課題や小テストの実施もできている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題が多く出題される範囲では、演習時間や教えあいの時間を取り、学力の向上を図る。 ・後期も実験室や ICT 機器の利用、プリント学習を継続していくが、各教員の指導法が異なるので、互いの取り組みを参考にして指導力の向上に努めていきたい。 ・基礎学力の定着をさせるために、演習問題をくり返し行う。 	
<p>取組内容⑥【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈音楽〉</p> <p>音楽の基礎的な知識の定着を図り、音楽・表現活動の中で音楽に対する感性や理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	
(誰一人取り残さない学力の向上)	
<p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校アンケートで「音楽の授業がわかる」と回答する生徒を 80%以上にする。 ②定期テストにおける正答率 2 割以下の生徒を 5%以下にする ③各学年で学期に一回以上、班活動などの主体的で対話的な活動を取り入れる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ol style="list-style-type: none"> ①学校アンケートで「音楽の授業が分かる」と回答した生徒は 92%であった。 ②定期テストにおける正答率 2 割以下の生徒は 4%であった。しかし、2 年生では 1%であったのに対し、1 年生では 7%であった。 ③1 学期から 2 学期前半にかけて、全学年で班での話し合い活動や、器楽合奏に取り組めた。各学年とも主体的で対話的な活動を、今後の合唱コンクールなどの取り組みに生かしていきたい。 	
次年度への改善点	
<ol style="list-style-type: none"> ①次年度も同等の水準を維持する。 ②1 年生への基礎知識の定着を図りたい。 ③次年度は 3 年生合唱コンクールの時期が早まるので、どのように主体的で対話的な活動を一学期に行うか検討する必要がある。 	
<p>取組内容⑦【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】〈美術〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生は美術学習においての基礎基本、準備や片付けの丁寧さの定着をはかる。 ・2 年生は情報収集や社会においての美術、意見交流を経て表現力を想像力の意欲向上を目指す ・3 年生は時間の計画性と日常で使える美術作品、個々の作品の共有、自己表現の追求をはかる。 ・家庭学習の提出、作品の完成期限を守る意識の定着 (誰一人取り残さない学力の向上) 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を80%以上にする。 ・全学年の提出物の回収率を7割超えるようにする。 ・スマールステップ形式を取り、ICTを活用し、よりわかりやすく説明をする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>校内学習意識調査において「学習がわかる」の全学年平均が81.7%であった。持続できるように毎回の授業の目的・目標を丁寧に伝えていく。提出物の回収率も7割は超えており、家庭学習にて準備する大切な定着しつつある。各学年それぞれの目標は順調に進んでいる。</p>	
次年度への改善点	
<p>持続できるよう、またより一層丁寧でわかりやすい説明ができるようICT機器を用いて、表現活動の重要性と楽しさを学べる授業を意識していく。</p>	
<p>取組内容⑧【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】(保健体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット・プロジェクター・電子黒板・拡大資料・ホワイトボードを系統的に使用する。 ・知識の観点からも理解を深めるため、教科書・保健学習ノート・図解中学体育(実技の教科書)を使用し、体力・運動能力の向上を目標に取り組む。 ・種目に応じたグループ学習を取り入れ、生徒同士での教え合い、話し合いの時間を設け、深い学びの時間を設ける。 ・毎時間のトレーニングを工夫して行い、技能を高める。 (健やかな体の育成) 	
<p>指標 :</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒アンケートにおいて「体育が楽しい」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。 ② 生徒アンケートにおいて「体育が好き」の項目のポジティブ回答が80%以上を目指す。 ③ 校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「とても思う」と回答する生徒の役割を50%以上を維持する。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①においては、アンケートの結果88.2%と指標を上回っている。</p>	
<p>②においては、82.9%と指標を上回っている。</p>	
<p>③においては、60%と指標を上回っている。</p>	
<p>すべての指標を上回ることができるので、学年末まで数値を維持できるように授業展開を行いたい。</p>	
次年度への改善点	
<p>A:「運動やスポーツをすることは好き」とB:「体育が好き」というアンケートのポジティブ回答だが、A:83%とB:82.9%とほとんど差がなかった。各学年の保健体育科教員が目標を意識し、授業の展開やグループ学習ができている結果である。2学期からはグラウンドが完全に使用することができるようになったことで、今までできなかつた種目できるようになった。今後も体育を通じて「できないことができる楽しさ」を実感させていく。</p>	
<p>取組内容⑨【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)】(技術・家庭)</p>	
<p>基礎的な技能を習得させるにあたり、実習の手順作品の制作方法をわかりやすく伝えるため導入においてICT機器やプリントを用いた説明を工夫する。</p>	
<p>(誰一人取り残さない学力の向上)</p>	
B	

指標：・技術家庭科共に校内学習意識調査における授業がわかるの項目を78%以上にする。

- ・技術では、多くの授業でICT機器等を活用し話し合いなども取り入れる。
- ・家庭ではパワーポイントなどを用い視覚的にも興味を持ちやすい授業づくりを行い学習意識調査「家庭科の学習は楽しい」のポジティブ回答を86.5%以上にする。(昨年度85.6%)
- ・生徒がICT機器等を使い調べ学習など自主的な学習を取り入れる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

1学期の校内学習意識調査における授業がわかるの項目は家庭91.9%、技術78.4%であった。この結果を受けて2学期以降は両科共に実習も行っていくため視覚的教材やICT機器などを活用し、よりわかる授業を心がけていきたい。

また、家庭の「家庭科の学習は楽しい」のポジティブ回答は92.4%だったことから引き続きわかる、たのしいを感じられる授業づくりを工夫していきたい。

次年度への改善点

技術・家庭ともに、できない、わからないと感じる生徒が減るようにより多くの視覚的教材や実際に触れてみることで知ることのできる活動や説明を多く取り入れていきたい。

技術においては今後実習やICT機器を用いた話し合いを実施し、より思考を深められる取り組みを行う予定である。家庭科も今後に調理や裁縫の実習を行う予定であることから、進度の可視化も意識しながら取り組んでいきたい。

取組内容⑩【4-3 英語教育の強化】〈英語〉

- ・デジタル教科書やパワーポイント等のICT教材を活用し、視聴覚に働きかけて生徒の英語への興味・関心を高め、「わかる授業」を展開する。
- ・C-Netと連携して生徒が自分の考えを英語で表現する授業を展開する。
- ・単元ごとに小テストを継続的に行い、基礎学力の定着を図り、学力差を軽減する。
(カリキュラム改革・グローバル化改革関連)
(誰一人取り残さない学力の向上)

B

指標：・校内学習意識調査における「授業がわかる」の項目を全学年75%以上にする。

- ・全学年で単元テストを行い、正答率を6割以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

「授業がわかる」の項目は、肯定的回答が全学年平均で78.7%と、指標を上回った。しかし、各クラス数人は「わからない(そう思わない)」と回答しており、得点分布を見ても学力差が生じている。単元テストに関しても、平均正答率が5割に満たないクラスもある。

次年度への改善点

引き続き、英語の苦手な生徒を含めた全体が理解しやすい授業を展開できるよう工夫する単元テストに出題されるような基礎的な事項に関しても、今後の反復学習により知識を定着させる。

取組内容⑪【5-2 健康教育・食育の推進】〈健康教育部〉

- ・『食育つうしん』の活用、保健委員会からの活動などを通して「食」に対する意義を理解させ、さらなる意識の向上を図る。
- ・保健委員会の活動を通して健康な心と体の育成に務める。
- ・環境委員会の活動や清掃活動を通して、校内美化の向上、校内施設・設備・備品の安全管理を徹底する。
(健やかな体の育成)

B

指標：

- ・校内調査において「給食をしっかり食べている。」の項目で、ポジティブ回答を

90%以上にする。

- ・校内調査において「早寝・早起きなど規則正しい生活を心掛けている。」の項目で、ポジティブ回答を 70%以上にする。
- ・校内調査において「学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。」の項目で、ポジティブ回答を 85%以上にする。
- ・保健委員会から集会・放送・学活などの機会を利用した啓発活動を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

校内調査において、①「給食をしっかり食べている。」の項目はポジティブ回答が 92%であり、指標の 90%を上回った。③「学校は清掃が行き届き、いつもきれいである。」の項目は 90%であり、指標の 85%を上回った。

②「早寝・早起きなど規則正しい生活を心掛けている。」の項目は 70%であり、指標を達成できた。関係する 2 つの委員会（保健委員会・環境委員会）は、生活習慣向上に関しての啓発や清掃用具の整備点検等に、積極的に活動できている。

生徒からの指標にも表れているように、給食・清掃とも順調に推移している。給食に関しては給食室の新設という大きな変化が課題であったが、栄養教諭を中心として、現在のところ大きな事故や問題なく運営できている。ただし、誤食は生じているので、今後とも注意や連携が必要である。清掃に関しては、特別区域の清掃用具ロッカーごとに色分けをして管理するなどして、学校全体の意識向上に努めている。継続して指標を達成できるように取り組んでいく。

性教育に関しては、教職員が授業をするとともに、助産院から講師の方もお呼びして話していただき、今年度中に学年ごとに実態に合った内容を 1 回以上実施する。

次年度への改善点

引き続き、教職員間で連携しながら、取り組みを継続していく。特に、②の指標を安定して上回れるように、生徒への啓発をしていきたい。

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○年度末の校内調査における「生徒用パソコンの使用や、話し合い活動を通して積極的に授業に参加している」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を87%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「ICT 機器を活用した授業は楽しい」に対して肯定的回答をする生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】(授業研究G・ICTG)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や様々な教育活動において、ICT機器を活用し、学力向上をめざした授業研究を進める。 ・一人ひとりの教員がICTを授業の中で有効活用して、自分の思う「わかりやすい授業」「考えさせる授業」ができるようにサポートを行う。 <p>(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p>	B
指標：校内調査において「(生徒用PCの使用や、話し合い活動を通して)積極的に授業に参加している」の項目において学校平均80%以上を達成する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
校内調査において当該項目は88%となり、目標を大きく上回っている。	
次年度への改善点	
積極的に参加している生徒が多数いるため、引き続き生徒用PCの使用や話し合い活動の時間を確保し、授業改善・学力向上につなげていきたい。	
<p>取組内容②【6-1 ICTを活用した教育の推進】(ICTG)</p> <p>学習者用端末の利用を積極的に推し進め、使用のルールの周知を図りながら、端末やACアダプタの管理を行う。</p> <p>(教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)</p>	B
指標：生徒意識調査で「ICT機器を使った授業」に対するポジティブ回答78%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
目標の数値より3%下回ってしまった。ICTGとして授業や特別活動での端末の使用を推進していく。	

次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内での ICT 機器使用のルールの統一 ・デジタル教科書や TEAMS の環境整備など教員が ICT 機器を使いやすい環境を整備する。 	
取組内容③【8-3 学校図書館の活性化】 〈図書委員会〉 <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣をつけるために、放課後開館等、図書館の利用を推進する。 	(生涯学習の支援) B
指標 : <ul style="list-style-type: none"> ・生徒 1 人の平均貸し出し冊数を 2.0 冊になるように、取り組みをすすめる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>今年度、図書室の開室は例年通り 5 月の連休明けから開室できる日はすべて開室した。また、図書の蔵書点検も夏休み中に終えることができた。本をたくさん借りてもらうために、夏休み前の国語の授業などで図書室に行き、全クラスで本に触れる時間を作った。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある図書室のための図書の精選と充実 	
取組内容④【9-1 教育コミュニティづくりの推進】 〈元気アップ G〉 <ul style="list-style-type: none"> ・元気アップ地域本部事業やそのボランティアとの連携を、地域に役立つ人材やリーダーの育成をはかる。 ・地域イベントへの参加、元気アップコーディネーターとの連携を通して地域貢献を行い、地域との繋がりを深める。 	(家庭・地域等と連携・協働した教育の推進) B
指標 : 地域に役立つ人材育成を目標とした元気アップ隊へのアンケートで、「地域の方と交流するのが楽しい」「地域の方と積極的に交流できた」の項目でポジティブ回答が共に 83%以上を目指す。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>指標については学年末にアンケートを予定しているため、指標の数値はわかりません。今年度の模擬店は昨年度で出店した食品ではなく、「わなげ」「お菓子釣り」「生徒会が考え、作ったゲーム」を出店した。</p>	
次年度への改善点	
<p>今後は、元気アップ畠の水撒きを積極的に参加できるように準備・声掛けをしていく。また、行事の案内の配布などをしているが、提出や参加・不参加が曖昧な生徒が居るので、生徒への声掛けなどを行い、生徒との関係づくりを心掛けたい。</p>	
取組内容⑤【7-1 働き方改革の推進】 〈管理職〉 <ul style="list-style-type: none"> ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。 	(人材の確保・育成としなやかな組織づくり) C
指標 : <ul style="list-style-type: none"> ・年度末に勤怠システムで、年次休暇取得率を確認する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>教職員の年次有給休暇の取得状況は 9 月末時点で平均 9.8 日であり、昨年同時期と比較して 1.4 日増加している。10 日以上取得している教職員の割合は 45.8% となっている。</p>	
次年度への改善点	
<p>教員の平均時間外勤務時間（9 月末まで）は、平均時間（累計）38 時間 53 分であった。これは、校種別の平均時間（累計）38 時間 05 分と比較すると 48 分長い。また、昨年度同時期 33 時間 14 分と比較し、5 時間 39 分増加している。業務改善を図り、長時間勤務の縮減を進めていく。</p>	